



こんどうせいりゅうとう  
金銅製龍頭 (国宝)

文化交流展示の根幹を為す作品との要請を受け

九州国立博物館へ

「金銅製龍頭」を含む一二二点出陳決定

先月号でお伝えの通り、九州国立博物館（以下「九博」）が、十月十六日にオープンする。沖ノ島のスーパーハイビジョン映像に加え、八月三日当大社より沖ノ島出土の神宝も一二二点出陳することが決定した。

九博のコンセプトは「日本文化が形成された歴史的歩みを、アジア史的観点の中で捉える」というもの。その中で、文化交流展示「海の道、アジアの路」というコーナーを四階に設け、古来より対外交渉の窓口として機能してきた九州を紹介する。

沖ノ島は、宗像（九州本土）と大島（対馬）と釜山（朝鮮半島）を一直線に結ぶ「海北道中」という海道上に位置し、我国とアジアの古代交流史を語る上で欠かせない存在であり、東は大和（奈良）へ、西は中国、シルクロ



さんかくごしんしんじゅうきょう  
三角縁神獸鏡 (国宝)



# 宗 像

## 9月祭事暦

○毎月1・15日 つきなみ 月次祭

午前10時  
高宮祭  
第二宮・第三宮祭  
引き読ぎ  
宗像護国神社  
月命日祭(1日)  
遙拜(15日)

午前11時～  
総社祭  
浦安舞 奉奏(1日)  
※1日は併せて  
風鎮祭 齋行  
豊栄舞 奉奏(15日)

23日  
皇霊殿遙拜式 午前10時～

31日 秋季大祭  
総社地主祭 午後5時～  
宵宮祭 午後6時～

## 宗像大社 御神菓 調製



味噌せんべい・博多の四季

### 本舗 梅月堂

代表取締役 三野 拓蔵

〒812-0029

福岡市博多区古門戸町1-11

TEL 092-291-2966



残暑御見舞申し上げます



出陳品名

① 金銅製龍頭	1対(2点)
② 方格規矩鏡	1面
③ 内行花文鏡	1面
④ 三角縁神獸鏡	1面
⑤ 金銅製心葉形杏葉	5点
⑥ 金銅製歩揺付雲珠	3点
⑦ 金銅製人形⑧ 雛形紡織具	17点
⑨ 滑石製円板⑩ 劍形品	44点
⑪ 滑石製馬形	12点
⑫ 滑石製舟形	28点
⑬ 奈良三彩小壺	2点
⑭ 祭祀用有孔土器	3点
⑮ 壺	1点
⑯ 大甕	1点
⑰ 器台	1点
合計 17件	122点

「下」を経由しペルシャ、ローマまで続く  
 壮大な、文化の路を語る上でも重要かつ、  
 現在でも信仰の対象である特異な島である。  
 九博からは「文化交流展示の根幹を為  
 す作品である」との要請を受け、社内で  
 検討の結果、前例のない、量・質ともに  
 異例の出陳が決定した。

この「海の道、アジアの路」で  
 は、旧石器〜縄文時代、弥生〜古墳  
 時代、奈良〜平安時代、鎌倉〜室町  
 時代、安土桃山〜江戸時代の五つの  
 時代ごとに別け、約八〇〇件を展示  
 する。当大社の出陳品は、その内の「  
 弥生〜古墳時代」のコーナーに展示  
 される。

出陳品は、神宝館でもメイン展示  
 品の一つでもある「金銅製龍頭」「  
 三角縁神獸鏡」「金銅製心葉形杏  
 葉」

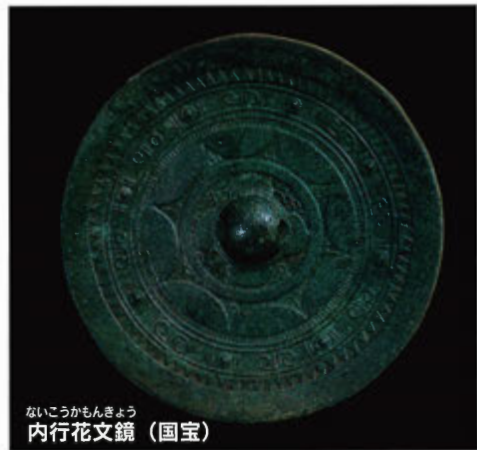


金銅製心葉形杏葉 (国宝)

「金銅製歩揺付雲珠」など一二二  
 点。  
 今回の出陳は、九博開館後約五ヶ月間で  
 来年三月十五日まで。その後も平成十九年  
 秋まで、出陳品の内容を検討しながら、神  
 宝の一部を出陳する予定となっている。



金銅製雛形紡織具 (国宝)



内行花文鏡 (国宝)



金銅製歩揺付雲珠 (国宝)

# 宗像建設協力会

事務局 〒811-3217 福津市中央5丁目1-20  
TEL (0940)42-3085

**松本組建設株式会社**

〒八二一、三三〇  
宗像市神湊一〇〇二  
FAX 〇九四〇〇六二  
松本純次

**株式会社 松崎組**

福岡市中央区荒戸一丁目二一四  
TEL 〇九二七五、三六九二  
FAX 〇九四〇〇五二  
松崎芳勝

**株式会社 日新建設**

〒八二一、三四三  
宗像市田熊四丁目一三六  
FAX 〇九四〇〇三六、二九三  
長尾榮次

**株式会社 田畑建設**

〒八二一、三二九  
福津市西福岡三一五一〇  
TEL 〇九四〇四二、〇五三  
FAX 〇九四〇四二、〇六七  
田畑博規

**株式会社 篠崎建設**

〒八二一、三二五  
福津市内殿一〇二一九  
TEL 〇九四〇四二、〇六一  
FAX 〇九四〇四二、〇七五  
篠崎清

**株式会社 桜井建設**

〒八二一、三二二  
福津市畦町三四六  
TEL 〇九四〇四二、〇一八  
FAX 〇九四〇四二、〇一五  
櫻井良行

**株式会社 井上建設**

〒八二一、三二七  
福津市中央五丁目二二〇  
TEL 〇九四〇四二、〇三三  
FAX 〇九四〇四二、〇三七  
井上重信

残著御見舞申し上げま可



# 夏越の大祓式

七月三十一日、夕刻とはいえ真夏の強い陽射しが照りつける午後五時より、夏越の大祓神事が、古儀に則り厳肅裡に斎行された。

大祓式は、奈良時代の昔より神祇官の命により、国家的祭事として全国津々浦々で行われて来た伝統ある儀式であり、今日では全国各地の神社に受け継がれ、旧暦の六月と十二月の晦日に二季行われている。



一同左廻り、右廻りに茅の輪を廻る

当大社では新暦、月遅れの七月三十一日に行っており、猛暑を無事越し、災厄除を祈る夏の恒例祭典となっている。

当日は明け方から雨がパラつき、茅取り作業が心配されたが、早朝より田島地区総代、地元協力会の皆様の御奉仕で大社近くの川辺で作業が行われ、大量の茅が準備された。その後一同で、一定の長さ量に揃え、直径五メートルにも及ぶ大茅輪が奉製され、

神門に備え付けられた。古来、この茅輪を三度潜れば、邪気・災難を祓い去り、暑気にもめげず健全な生活を送ることが出来ることと伝承されている。

定刻、全国から寄せられた紅白人形が茅輪の前に供えられ、神島宮司以下神職、巫女、氏子崇敬者約三〇〇名が神門前に参集し、神事が開始された。

高向権宮司が「大祓詞」を奏上した後、参列者各人「切麻」で祓い、「祓物」に息吹を吹きかけて切り裂き、半年間の罪・穢を祓った。続いて、神島宮司以下参列者全員で、



茅輪を左に廻り

みなつきの夏越の祓へする人は  
千歳の命延ぶといふなり

茅輪を右に廻り

思ふこと皆つきねてと麻の葉を

切りに切りても祓へつるかな

さらに茅輪を左に廻り

宮川の清き流れに袂せば

祈れることの叶わぬはなし

と古歌を奉唱しながら、三度潜り、無病息災を祈った。

引き続き、本殿へと参進し夏越祭を斎行。国家・皇室の安泰と繁栄、氏子崇敬者と、全国から人形を寄せられた方々の健康・災難消除を祈念する祝詞が、神島宮司により奏上され、巫女による神楽「豊栄舞」が奉奏され、夏恒例の一大神事は滞りなく終了した。



## 宗像タクシー協会

連絡先 〒811-4183 宗像市土穴398-11  
TEL (0940) 35-1111

みなとタクシー株式会社

代表取締役 古野 浩  
宗像市土穴三九八-11  
TEL 〇九四〇・三三二・三三二

新星交通有限公司

代表取締役 森 正彦  
宗像市東郷八九四-3  
東郷営業所  
TEL 〇九四〇・三六二・二三八

宗像西鉄タクシー株式会社

代表取締役 小金丸 重樹  
宗像市自由ヶ丘二七-三  
TEL 〇九四〇・三二四・一三一

宗像グリーンタクシー有限公司

代表取締役 藤瀬 政敏  
宗像市河東一〇六-1  
TEL 〇九四〇・三三三・三〇三

宗像平和タクシー株式会社

代表取締役 塩川 浩一  
福津市中央三丁目八-11  
TEL 〇九四〇・四二二・〇四〇

福栄タクシー有限公司

代表取締役 保井 享  
福津市西福岡二丁目一〇-三  
TEL 〇九四〇・四二二・〇三七三

宗像交通有限公司

代表取締役 塩川 浩一  
福津市津屋崎七一九-五  
TEL 〇九四〇・五二二・〇一五

残暑御見舞申し上げます



# 夏の夜に筑前大島で七夕祭

八月七日、七夕伝説発祥の地といわれる筑前大島・中津宮において七夕祭が行われた。

同宮境内には、大島で最高峰の御嶽山を源流とする伝説と同じ「天の川」が流れ、この清流を挟み「牽牛社」と



織女社」が向き合って鎮座している。

当日早朝より沖・中両宮奉賛会（佐藤千里会長）、同敬神婦人部（河辺恒子部長）、同翼賛会（上野美実会長）の御奉仕により竹取や飾り付けなどが行われた。

また、辺津宮境内で各地からの参加者が願いを込めた短冊も、この日大島に運ばれ、飾り付けを終わると島は七夕ムード一色となった。午後七時には、浴衣姿となった島民や、島外からの参加者が続々と中津宮へと参集し、大島青年団（福崎義幸団長）奉仕による「金魚すくい」「ヨーヨー釣り」、また翼賛会奉仕による「カキ氷」が催され、家族連れを中心に七夕の夜を楽しんだ。

午後八時からは七夕祭が斎行され、参加者はそれぞれの祈りを込め玉串を捧げた。祭典後には、恒例の七夕踊りが大島居を囲んで行われ、島民も、来島者も、子供も、大人も皆で七夕の夜を盛り上げた。

また、大島にとって本年は宗像市との合併元年。記念事業の一つとして宗像ユリックスプラネタリ



竹燈や笹竹で飾り付けされた筑前大島



七夕祭祭典の様子

ウムで、夏季特別番組「天の川」大島の星物語」が上映中であり、同代表の加藤治氏も来島、照海殿を使つての「星の勉強会」が行われ、星がきれいに見えることで知られている大島の子供たちは、その話に熱心に聞き入っていた。



宗像大社御神酒醸造元  
**勝屋酒造合名会社**

社長 山本 博次  
福岡県宗像市大字赤間957  
TEL(0940)32-3010 FAX(0940)32-4772



地球に優しいひとときを…  
**Genkai Group**

玄海グループ

〒811-3502 福岡県宗像市江口978-52  
本社 TEL 0940-62-0653 FAX 0940-62-1565  
URL <http://www.genkai-g.co.jp>

(有)玄海環境サービス (宗像市.許可業)

- 一般廃棄物収集・運搬
- 浄化槽の維持管理

玄海環境グループ

- 玄海クリーン(有) (宗像市.委託許可業)
- 一般・産業廃棄物収集・運搬・処理

残暑御見舞申し上げます



# 宗像大社 秋季大祭 ( 田島放生会 ) の御案内

当大社最大の神事、秋季大祭を下記日程で斎行致します。皆様の御参拝を心よりお待ちしております。

## 宗像大社秋季大祭(田島放生会) 日程

10月1日(土)	海上神幸 (みあれ祭)	9:30	大島港出港
		10:30	神湊港入港
10月2日(日)	一日祭 (入御祭)	11:40	於=辺津宮 本殿 主基地方風俗舞 奉奏
	流鏝馬神事	8:00	於=神門前 参道
10月3日(月)	二日祭	11:00	於=辺津宮 本殿 翁舞 奉奏
	三日祭	11:00	於=辺津宮 本殿 浦安舞 奉奏
	高宮秋季大祭 第二宮・第三宮 秋季大祭 宗像護国神社 秋季大祭	三日祭終了後引き続き、 各社に分かれ同時斎行	
	献茶祭	14:00	於=辺津宮 本殿



お問い合わせ先  
宗像大社 社務所  
(0940)62-1311(代)

※ 尚、本年より秋季大祭終了奉告祭(仮称)を、高宮斎場で3日の薄暮(18時過ぎ)より執り行います。  
篝火が浮かび上がる浄壇の中、高宮斎場で行われる悠久の神事に是非御参列下さい。

### 奨学金受給生から

先日、本殿の賽銭箱に、過去の奨学金受給生とみられる匿名の方から、初穂料十万円と、次のようなメモ書が添えられ納められておりましたので、御紹介させていただきます。

私は昭和四十一〜四十二年度の期間に宗像大社奨学金をいただいた者です。お陰様で、その後九州大学大学院の修士課程を修了して、東芝に就職し、少しは社会のお役に立てたと思えます。この度、五十五歳の選択退職をしましたが、これを機会に少しでも恩返しをしておかなければと思ひ、些少ではありますが、御礼をさせて頂きます。本当にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

創業嘉永三年(1850年)  
伝統に支えられた宗像神湊の味。

**ナカマル醤油醸造元**  
宗像市神湊1118  
TEL 0940-62-0003 FAX 0940-62-0353

昭和15年頃のナカマル醤油本店

暮らしの夢を大きくひらく

**株式会社 城山家具**  
代表取締役社長 寺田 修  
宗像市三郎丸519-1  
本館 0940-33-5538 城山二 0940-33-0005

**丸宝印刷**  
(旧 大和印刷)

代表取締役社長 福田雪雄  
福岡市博多区吉塚4丁目11番32号  
TEL 092-612-0030 FAX 092-612-0037

**宗像農業協同組合**

本店 代表理事組合長 寺島 俊基  
宗像市東郷4丁目3番1号 TEL 0940-36-4110

田島支店 支店長 中野 修  
宗像市深田75-1 TEL 0940-62-1515

宗像大社神酒

**伊豆本店**  
代表者 伊豆善也  
福岡県宗像市武丸1060  
TEL 0940-32-3010 FAX 0940-33-0512

印刷のことならお気軽にご一報ください  
名刺・封筒・はがき・カラー印刷・製本のことなら

**中川印刷**  
福岡県津门市津屋崎975 TEL 0940-52-0044 FAX 0940-52-0414

残暑御見舞申し上げます



# 第五十回 中津宮七夕揮毫会

たなばた きごうかい

今年で五十回目という節目を迎えた「中津宮七夕揮毫会」が、七月二十二日筑前大島に鎮座する中津宮で、約一五〇人の参加で開催された。

書道教育の振興を目的に、昭和三十一年に始められたこの揮毫会は、数ある宗像大社の神振行事の中で最も歴史を有し



揮毫する子供たち(於=大島小学校)

ている。

猛暑の中、今年も大島は勿論、県内各地から多くの子供達が来島。限られた時間の中、揮毫会場である大島小学校で、日々の練習の成果を発揮しようとする筆先を集中させ、懸命に各題目に挑んだ。正午には全作品が中津宮に提出され、御神前に奉献した後、福岡書道会の各先生方によって厳正な審査が行われた。

その間、緊張から開放された子供達は、大島の方々の御協力で行われている恒例の「サザエ拾い」や海水浴を楽しみ、島でしか味わうことのできない大島の自然を大いに満喫した。

午後三時から、中津宮で表彰式が行われ、葦津禰宜から入賞者に賞状とトロフィーが手渡され、午後四時には一同大島の思い出を胸に家路についた。

大島島民をはじめ多くの方々のご協力により、五十回の記念大会も盛會裏の内に幕を閉じた。

各賞受賞者は左記の通り

### 福岡県知事賞

- 三木 祐佳里 (津屋崎中一年)
- 三木 麻友香 (津屋崎小三年)

### 県議会議長賞

- 衣川 枝里 (津屋崎中二年)
- 鈴木 琴音 (津屋崎小四年)

### 県教育委員会賞

- 安部 未奈美 (玄海中三年)
- 門田 さとみ (自由ヶ丘南小一年)

### 宗像大社宮司賞

- 井上 史穂 (中央中学二年)
- 上村 真凛 (福岡小五年)

### 宗像市長賞

- 磯脇 祐太 (城山中一年)
- 松原 詩歩 (篠栗小二年)

### 宗像市議長賞

- 大津 奈々 (雙葉中三年)
- 与田 真子 (みのり保育園)

### 宗像市教育委員会賞

- 井土 健稔 (中央中一年)
- 池之上 祐太郎 (笹丘小六年)

### 大隈終石特別賞

- 原 愛梨 (柳河小六年)
- 原 由梨亜 (柳城中三年)

### 福岡書道会賞

- 本田 真侑子 (雙葉中三年)
- 松原 周蔵 (篠栗小六年)
- 与田 実果子 (藤吉小六年)
- 末吉 礼奈 (雙葉小五年)
- 門田 郁美 (自由ヶ丘南小四年)
- 松原 聡吉 (篠栗小三年)
- 白石 なおこ (津屋崎小二年)
- 矢野 桃子 (東郷小四年)
- つる ゆうき (のぼり第二保育園)

### 尚文堂賞

- 山下 知恵 (城山中三年)
- 高山 明日香 (吉武小六年)
- 萩 ありす (南当仁小六年)
- 花田 理沙 (津屋崎小五年)
- 萱野 優生 (赤間小四年)
- 川崎 千尋 (警固小四年)
- 中村 優花 (八田小三年)
- 高崎 育美 (三苫小二年)
- たかた みのり (津屋崎小一年)



揮毫後の「サザエ獲り」をする子供達

写真は一生の財産です

いっせい **一勢**

Photo Studio

美しい証明写真・宮参り・百日・誕生・七五三・同窓会記念 各種出張撮影致します。

福岡県宗像市田熊1180-6 TEL 0940-36-8596

出光興産株式会社販売店  
東京海上日動火災保険(株)代理店

**吉井商事株式会社**

代表取締役社長 吉井 英海

本社 宗像市深田67-7  
TEL 0940-62-0004 FAX 0940-62-3343

創業大正七年 鮮魚・海産物

**沖まじ**

福岡県宗像市神湊中町  
TEL 0940-62-0006(代)  
FAX 0940-62-2143

**ファミリーストア 岡山**

岡山 秀雄

福岡県宗像市神湊1000  
TEL 0940-62-0134  
FAX 0940-62-2914

**SANCS**

事務機・文具・オフィス家具

株式会社 **サンクス**

代表取締役社長 藤井 俊孝  
宗像市東郷109-3  
TEL 0940-37-2150  
FAX 0940-37-2428

食料品・青果・たばこ

**田中商店**

福岡県宗像市神湊1052  
TEL・FAX 0940-62-0122



(続)



196

いしい ただし

八月二日正午過ぎ、古代復元船「海王」は博多港に入り、ベイサイドプレイス博多埠頭に繋留された。

熊本県宇土市綱津町馬門の石切り場で加工された家型石棺を後にひいていた。

古代船は樹齢五〇〇年のアメリカカ松を使って志賀島の造船所で造られたものである。全長二メートル、幅一七〇センチ、宮崎県西都原古墳の埴輪を模したもので、漕手一八名等を中心として、三、四名が乗組んだ。石棺は丸太を筏状にして、木箱の中に蓋石だけが置かれ、外から見られるように開かれていた。石棺は雨に濡れてピンクの色が一層彩やかに見えた。

時折り雨が降る中に見学者は後を絶たない。会のメンバーであろうか、熱心に実験



博多港

航海の概要を説明し、見学者は聞き入っていた。



さて「大王のひつぎ

」の石棺となった原石は、熊本県宇土市馬門に産するもので、阿蘇山の火砕流で流出した火砕流が冷えて固まったものである。正式の名称は「阿蘇溶結凝灰岩」と呼ばれる。この石は熊本はもとより大分、宮崎から福岡まで分布し、八女の灯籠石もこの石で、我々にとっても馴染み深い。あの筑紫君磐井の墓とされる岩戸山古墳の石人や石馬もこの時のもので凝灰岩である。軟らかく加工しやすい特徴をもっている。黒灰色や灰白石もあり、宇土市の馬門石のようなピンク色をしたものもある。

このピンク色した石が古墳時代人の目にとまったのは、五世紀前半で上天草市大矢野町の長砂連古墳とされる。その後、この石は宇土市とその周辺で一二基ほどが確認されている。更に遠く岡山県の「造山古墳」に黒灰色の溶結凝灰岩の石棺がある。更に五世紀末から六世紀前半になると大阪府内の古墳の石棺にも使われている。

なかでも伝継体大王陵とされる今城古墳にも使われている。今回の「大王のひつぎ」は、この古墳からのものがタイトルになっている。その後一時近畿地方に運ばれな



大島港

くなり、宇土半島周辺の古墳に使われるが、六世紀末には推古女帝とその子竹田皇子が合葬された奈良「植山古墳」からと、推古女帝の甥、聖徳太子ゆかりの大阪市・四天王寺南大門正面にある「礼拝石」も馬門石が使われている(以上馬門石マップより)。とにかく宇土の馬門石(ピンク石)が、はるか近畿地の方の王墓や豪族達の墳墓の石棺に使われていることである。

古代船を復元、彼等を葬った石棺を復刻して、実際に船で運ぶという規模の大きさ。古代史ファンにとっては限らないロマンを掻き立てるものがある。しかも学術的にも実験考古学という試みがあり、色々な問題を提起することになる。

博多港に着いた古代船は三日、大島にむけて出発。予定としては瀬戸内海を通り、途中いくつかの港に寄って大阪南港には八月二六日に着くという。

### 玄海ホテル旅館組合

玄海国定公園の中心

一風光明媚、生魚料理、宗像大社となり一



泉 館 ☎ 〇九四〇〇  
六二一〇〇三五

魚屋 本店 ☎ 〇九四〇〇  
六二一〇二二二

魚屋 別館 ☎ 〇九四〇〇  
六二一三三五五

玄海 旅館 ☎ 〇九四〇〇  
六二一〇〇〇一

玄海ロイヤルホテル ☎ 〇九四〇〇  
六二一四一一一

神湊スカイホテル ☎ 〇九四〇〇  
六二一三三八〇

高嘉 旅館 ☎ 〇九四〇〇  
六二一一二二二

はなわらび ☎ 〇九四〇〇  
六二一一一五六

はま 荘 ☎ 〇九四〇〇  
六二一〇五〇〇

松風 荘 ☎ 〇九四〇〇  
六二一〇二二〇

みなと 荘 ☎ 〇九四〇〇  
六二一二二五五

国民宿舎ひびき ☎ 〇九四〇〇  
六二一一二八八

海宴 ☎ 〇九四〇〇  
六二一〇一〇〇

残暑御見舞申し上げます



第五二九回

宗像大社歌会詠草

大野展男選 毎月25日メット



いささかの風に葉先のふれ合へる楓若葉の下にて想ふ

(評) 憩いながら作者の胸中を去来するものは何だろうか、手練の作品。

宗像市 日の里 石松 弘次

戦友と口遊みたる「綴芬河小唄」唄へば今も哀愁のわく

福岡市 南区 井田 有久衣

クサイエ島より生還の夫なりき酒を酌みつつ思い出語らう

(評) 今年で戦後六十年。まだあの戦いの記憶のうすれない人達がいる。石松さんは直接に、井田さんは夫を通してそれを詠う。共に貴重な人々である。

宗像市 日の里 大和 美由紀

登山口入りてすぐに頭上から一声高く時鳥鳴く

(評) 何処の山だろうか、杉田久女が英彦山に何日も通つて得たとされる「一餅して山時鳥ほしいまゝ」の名句を思い出した。

宗像市 鐘崎 安永 久子

すぐそばに鶯啼けど姿なし澄みたる声の山寺の径

(評) 鶯は夏には平地から山地に帰って繁殖をするが、その頃の過敏な鶯であろう。

宗像市 池田 森 龍子

おどおどと見廻す目白と目が合ひて思はず顔を伏せて息を詰む

(評) 目白たちにそそぐ作者の優しいところが見える。

福津市 在自 佐々木 和彦

雉鳩の啼くりズムにて明ける朝良き事あれな今日のいちにち

(評) 小鳥の歌が四首続いたが、この一首は作者とのかかわりが色濃く、勤勉で且つロマンチストの作者の顔が覗く。

宗像市 東旭ヶ丘 天野 玲子

なつかしき声を聞きしはよけれども背立ちてくる長き電話に

(評) 以前福井の商工会議所のアンケートした質問項目のなかの、長電話とは九時間と答えた人がいた。

宗像市 田野 森 甲子

復元の薬作きの家涼しくてこぼこの上聞踏めばなほさら

(評) 昔の家の三和土の土間の涼しさは今の人には判らないだろう。「踏めばなほさら」がいい。

宗像市 朝野 藤井 浩子

両側は水張田にして泉道を泥落しつづ耕運機ゆく

(評) 汚した泥もやがて雨が流してくれる頃には、苗も伸び涼し気な青田となる。

うきは市 浮羽町 向 則正

摘果せずなりゆき委せの枇杷の木に黄のあふれつつ実の熟したり

(評) 今年は枇杷の当り年だったのか、果物好きの私には羨ましい風景。

宗像市 光岡 佐藤 純一

伊太利は長ぐつので地中海の日輪あびてファッションセンスあり

(評) 破天荒な詠みぶり、ただ事柄が常識的な処が惜しい。

選者 詠

手をふりて砂丘をのぼりゆく友をエンジュの青葉の下に見送る

再の目を君らと遊ぶ事あるや砂丘の裾の昼顔の花  
砂丘に咲く顔花のうすき紅八十歳は期しがたき年



宗像大社歌会 俳句作品集(五〇四)

光岡 白土 凌一

文月来てやつと降りたる恵み雨

東郷 田中 憲象

すれすれに海上走る燕かな

日の里 花田 いつ枝

夜半の風月下美人の開ききる

東郷 宗風社俳句会

ハウス中蔓の切れそうなメロンなる

吉武 湧泉

呆けても消えぬ思ひ出夏椿

吉田 杏子

遊覧船釣舟湖上の入道雲

田中 雨葉

青紫蘇は天然生えに足らひけり

木原 房子

編集後記

電車や飛行機に乗り、何となく景色を目にしていると「あつ、あそこはたぶん神社だな」と分かります。住宅街、田園風景、山の麓でボツンと高い木がそびえる森があれば、そこはまちがいない神社「鎮守の社」です▼当社も豊かな社で、初夏は蝉、この時期日中は蝉が鳴き、夜はカブトムシ(ママシも出ます)がみられます。しかし、今年日本には五〇〇種類、九〇万匹のクワガタ・カブトムシが輸入されたそうです▼この夏も夜になれば虫かごをもった家族連れを、境内でよく見かけました。境内を一周すれば、必ずカブトムシが採れます。ただ御祭神が姫神様だからか、ほとんどがメスです。小生もまた宗像ではメスしか捕まえたことはありません。もう夏は終わりますが、来夏は夜の宗像大社に是非お越しください。(M・O)

宗像大社社務所 発行所

〒811-3505 福岡県宗像市田島  
電話 0940-62-1311(代)  
発行人 伊藤佳和  
編集人 大塚宗延  
制作 ジーエータップ  
印刷 セネラルアサヒ

定価1年送料共1,000円